

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		化学				基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		今 重之					
授業目的		医療の一端を担う看護師にとって化学は必須の学問である。医療現場では化学単位や学術語が頻繁に使われていることから、看護師は十分な化学知識を正確に理解する必要がある。本授業では、看護学で必要となる化学単位から無機化学、さらに有機化学の基礎を学修することを目的とする。					
到達目標		1) 化学で必要となる単位、記号を説明できる 2) 無機化学の基礎を理解できる 3) 有機化学の基礎を理解できる 4) 基本的な化学計算を行うことができる					
授業の概要		講義は配付資料、板書を用いて行う。 理解度把握のために適宜小テストを行う。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		時政孝行:看護に必要なやり直し生物・化学(照林社)					
自己学習		講義で行った内容を復習し理解する					
留意事項(持参品等)		テキストとノート、筆記用具					
授業計画(授業内容)		第1回 オリエンテーション、単位					
		第2回 化学—物質の構成					
		第3回 化学—溶液とコロイド					
		第4回 化学—化学反応					
		第5回 化学—酸とアルカリ					
		第6回 化学—有機化学1					
		第7回 化学—有機化学2					
		第8回 まとめ 試験					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		情報処理				基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		金本 直登					
授業目的		職業人として情報機器の使用ルールと基本操作について学習する。 パソコンを活用して看護研究や勉強会等の発表ができるように学習する。					
到達目標		WindowsとOfficeソフト(Word、Excel、PowerPoint)の基本操作ができる。 ファイルのコピー・移動・削除、フォルダの管理と整理ができる。 業務の記録・報告書等のビジネス文書が作成できる。 インターネット・メールを安全に利用するための注意点(ウィルス、個人情報の保護)について学習する。 プレゼンテーションの基本(構成づくり、視覚資料づくり、伝え方の工夫)を学習し、聞き手に説得力のある事実やデータを盛り込んだ情報収集ができる。 情報収集したデータについてExcelを利用して表やグラフにしたり、一次資料(自分で調査したデータ)・二次資料(公表している情報)の作成ができる。					
授業の概要		問題を解きながら、パソコンの基本操作を身に付ける。 業務を効率よく迅速に対応するためのパソコン活用と、社会人としてのコミュニケーションツールとしてメールやインターネットの利用方法を学習する。 グループで発表のテーマを決めて、プレゼン資料の作成からリハーサルを行い、伝えたい内容が明確に表現できるようなプレゼンテーションを実施する。					
成績評価		課題作成をもって評価点とする。					
教科書等		中山和弘:看護情報学, 医学書院					
自己学習		作業スピードを上げるために、タイピングソフト等を利用して、文字入力の練習を行う。 日頃よりニュースや新聞、書籍、雑誌等を読んで、自分がどう感じるのかを意識しながらプレゼンの意見をまとめられるように情報収集を行う。					
留意事項(持参品等)		特になし					
授業計画(授業内容)		第1回:パソコンの概要					
		第2回:WORD①					
		第3回:WORD②					
		第4回:WORD③					
		第5回:WORD④					
		第6回:課題作成					
		第7回:EXCEL①					
		第8回:EXCEL②					
		第9回:EXCEL③					
		第10回:課題作成					
		第11回:Power Point ①					
		第12回:Power Point ②					
		第13回:Power Point ③					
		第14回:Power Point ④					
		第15回:課題作成					

学科		看護学科	開講年度			令和3年度	
科目名		LTD学習法				基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		須藤 文					
授業目的		支援対象者やその家族、他職種と協同して問題解決できる実践力は看護職に不可欠である。この3年間で仲間とともに着実に成長していくための科学的思考力と汎用的能力の基盤を体得する。本科目では、協同学習の理論と技法に基づき、LTDを体験的に学習する。					
到達目標		1) 3年間の学校生活の見通しを持ち、主体的に学ぶことができる。 2) 協同的なグループワークができる。 3) 論理的な言語技術を獲得することができる(聴く・話す・読む・書く)。 4) LTDを体験的に理解し、自分の生活に活かすことができる。 5) 学生同士のつながりを深めることができる。					
授業の概要		協同学習の理論と技法に基づき、ペアやグループを効果的に使用した活動性の高い授業を展開する。LTDによる文章読解を体験的に理解することにより、LTDを「討論」ことや「文章作成」にも活用できるようにする。					
成績評価		授業への参加度(50%)、提出物(50%)					
教科書等		安永悟(2019)授業を活性化するLTD, 医学書院					
自己学習		テキストにできるだけ目を通しておく。次に示すページは、必ず読んで、大事だと思うところに線を引いておく(テキストp.136, p.147-p.151)。					
留意事項(持参品等)		「協同の学習観」(テキストp.50)に則った授業を行う。主体的に学ぶことで、協同学習の効果を実感してほしい。					
授業計画(授業内容)		第1回 導入・学びの場づくり					
		第2回 これからの教育・協同学習の考え方					
		第3回 LTD(概要とステップ理解)					
		第4回 分割型LTD(導入)					
		第5回 分割型LTD(step4まで)					
		第6回 分割型LTD(step5から)					
		第7回 LTDを活用した討論					
		第8回 LTDを活用した文章作成					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		心理学				基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		石原 金由					
授業目的		心理学とは人間の心と行動の様々な現象を実証科学的に探究する学問である。本科目では、心理学の歴史と研究方法や、心理的発達、感覚・知覚・認知、記憶、言語・知能、思考、動機づけ、学習、性格など心理学研究の成果に基づいた基本的理論について学修する。					
到達目標		1)心理学の基本的な知識について理解できる。 2)日常生活の人間行動について、心理学と結びつけて理解できる。 3)心の発達の変化について理解できる。 4)看護における心理学について理解できる。					
授業の概要		人間の行動を理解したり、行動の評価をするためには、心理学に基づいて行うことが必要である。学習、発達、健康などを心理学で捉えることによって、対処方法を見出し理論的に理解する。					
成績評価		課題(30%), 定期試験(70%)					
教科書等		山村豊:心理学(医学書院)					
自己学習		授業後に復習をする。					
留意事項(持参品等)		テキスト、ノート					
授業計画(授業内容)		第1回 心理学とは					
		第2回 行動の生理的背景					
		第3回 学習Ⅰ(条件づけ, 知覚運動学習)					
		第4回 学習Ⅱ(認知的学習, 応用)					
		第5回 記憶Ⅰ(感覚記憶, 短期記憶, 作動記憶)					
		第6回 記憶Ⅱ(長期記憶と忘却)					
		第7回 動機づけ					
		第8回 適応とストレス					
		第9回 発達Ⅰ(認知・思考の発達)					
		第10回 発達Ⅱ(青年期と同一性)					
		第11回 発達の障害					
		第12回 性格					
		第13回 感覚と知覚					
		第14回 臨床(心理的支援)					
		第15回 睡眠と健康					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		文学			基礎分野		
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		谷川 充美					
授業目的		生涯学習の基盤となる文学に親しむ態度を身につける。 主体的に文学作品と向かい合い、内容や主題に対する問題意識を持つ。 文学作品に対して幅広く興味を持ち、読書の習慣を養う。					
到達目標		1) 文学作品の読み方を身につける 2) 作品に対する独自の問題意識を持つ 3) 日本文学の変遷および特徴を理解する					
授業の概要		この授業は、配布資料を用いて日本の文学作品についての講義を行います。近現代日本文学の小説を中心に詩歌、俳句、随筆などさまざまなジャンルの作品にも触れることで、文学作品が持つ魅力を理解していきましょう。 また、授業は基本的に講義形式で進めますが、各回の課題作品に対する感想を文章として取りまとめ、発表する機会も設けていきます。					
成績評価		提出物(30%)、授業態度(20%)、レポート(50%)					
教科書等		使用しない。 各回の課題作品のテキストは、授業担当者からの配布資料に拠る。					
自己学習		図書館を活用して、日常生活の中に文学を取り込んでみてください。 広義の文学作品(漫画やアニメ)も批判的に見る態度を心がけましょう。					
留意事項(持参品等)		配布資料を散逸しないよう、ファイル等にまとめる工夫をしてください。					
授業計画(授業内容)		第1回 ガイダンス(授業の目的・進め方・評価方法を理解する) 第2回 文学って何だろう?(古今の文学作品を取り上げ、その概念を論じる) 第3回 文学って楽しい?(古今の文学作品を取り上げ、その魅力を論じる) 第4回 形式って何?(小説・詩歌・随筆を取り上げ、それぞれの特徴を論じる) 第5回 ジャンルって何?(小説を例に、テーマやモチーフによる違いを論じる) 第6回 読み解くって何?(近代文学の名作を取り上げ、読解の仕方を論じる) 第7回 読み比べて?(夏目漱石の作品を取り上げ、作家の個性を論じる) 第8回 読まれるって?①(ベストセラー作品を取り上げ、その魅力を論じる) 第9回 読まれるって?②(ベストセラー作品を取り上げ、その魅力を論じる) 第10回 文学賞って?①(芥川賞受賞作を取り上げ、史的意義を論じる) 第11回 文学賞って?②(直木賞受賞作を取り上げ、史的意義を論じる) 第12回 文学賞って?③(本屋大賞受賞作を取り上げ、史的意義を論じる) 第13回 関係あるの?①(絵本を題材に、視覚と文学的表現の関係を論じる) 第14回 関係あるの?②(漫画・アニメを題材に、文学との共通性を論じる) 第15回 現在の文学(アンケートで選ばれた作品を取り上げ、価値を論じる)					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		英語 I				基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		山内 圭					
授業目的		一人前の看護師(および社会人)になるためには教養を身に付けることは大切なことである。この授業では、やさしい英語を読みながら教養を身に付け、これまで学んできた英語の総復習を目指す。					
到達目標		これまでに学んできた英語の復習となることも目指しつつ、教養も身に付ける。また、必要に応じ、編入試験や就職試験に対処できる英語力を身に付ける。					
授業の概要		平易な英語で書かれた文章を読み、英文法の基本事項も確認する。					
成績評価		定期試験(90%)、平常点(授業時の発表、毎回行う医療英単語の小テスト、提出物など)(10%)で総合的に評価する。					
教科書等		Joan McConnell・山内 圭:リーディングで深める英文法(成美堂)					
自己学習		毎回授業の予習をして授業に臨むこと。					
留意事項(持参品等)		中型サイズの英和辞典(高校時に使用したものでよい)を用意すること。					
授業計画(授業内容)		第1回: ガイダンス					
		第2回: Chapter 1					
		第3回: Chapter 2					
		第4回: Chapter 3					
		第5回: Chapter 4					
		第6回: Chapter 5					
		第7回: Chapter 6					
		第8回: Chapter 7					
		第9回: Chapter 8					
		第10回: Chapter 9					
		第11回: Chapter 10					
		第12回: Chapter 11					
		第13回: Chapter 12					
		第14回: Chapter 13					
		第15回: Chapters 14 & 15					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		健康とスポーツ				基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		吉村 直樹					
授業目的		スポーツを取り巻く環境の変化と、スポーツを通じて心身ともに健康で文化的な生活を営むことを理解する。					
到達目標		1) 人間にとってのスポーツの重要性について理解できる。 2) スポーツの文化的・歴史的背景を理解し、現代のスポーツの特徴や課題について理解できる。 3) スポーツと人間の発育・発達の関係について理解できる。 4) スポーツと高齢者の関係について理解できる。					
授業の概要		各スポーツの法則性を維持しながら、人とのコミュニケーションを図り、各種スポーツの基本的法則性を学び、心身の健康法等、スポーツが心身に作用する影響を考慮しながら体験学習する。また高齢者及び生涯スポーツについて理解する。					
成績評価		姿勢(態度、欠席、遅刻、早退、見学)20%、レポート40%、実技40%を総合評価する。					
教科書等		資料のみ					
自己学習		各種スポーツの簡単なルールを理解しておく。					
留意事項(持参品等)		運動のできる服装と靴を準備のこと(館内は上履き)。スポーツの意義を考えながら実技に参加する。					
授業計画(授業内容)		第1回 スポーツの文化的・歴史的背景					
		第2回 実技 ストレッチ体操					
		第3回 スポーツと社会					
		第4回 実技 縄跳び・綱引き					
		第5回 スポーツと人間形成					
		第6回 実技 ドッチボール					
		第7回 健康スポーツを学ぶ意義					
		第8回 実技 バレーボール					
		第9回 スポーツと発育・発達					
		第10回 実技 ランニング					
		第11回 スポーツと高齢者・まとめ					
		第12回 ~第15回 広島県スポーツ交流大会					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		人体の構造				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	2単位	時間数	60時間
担当教員		内藤 一郎					
授業目的		人体の生命現象のメカニズムを理解するために、人体の形態と構造を理解する。					
到達目標		1) 人体構造を機能と関連づけて理解できる。 2) 基本的な解剖学用語を確実に身につけることができる。 3) 人体構造を機能と関連づけて理解できたことを説明できる。					
授業の概要		人体の構造と人体の機能を統合し、人体を系統的に理解できるよう解説する。また、健康な状態と障害のある状態を観察する力や判断力を養う。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		坂井建雄他:人体の構造と機能[1] 解剖生理学(医学書院)					
自己学習		授業前には必ずテキストに目を通すこと。授業後は練習問題などで知識を定着させること。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 人体の階層性・組織の種類・構造からみた人体					
		第2回 骨格の構造と機能					
		第3回 骨の連結と関節の構造					
		第4回 全身の骨格と関節					
		第5回 身体の支持と運動					
		第6回 全身の筋肉・筋肉の構造					
		第7回 消化器系:口腔と咽頭					
		第8回 消化器系:消化管の構成と機能					
		第9回 肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能					
		第10回 泌尿器の構成					
		第11回 腎臓の構造と機能					
		第12回 尿生成のしくみと体液の調整					
		第13回 循環器:心臓の構造の冠状血管					
		第14回 循環器:全身の動脈・静脈					
		第15回 リンパ系と胎児の血流					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		人体の構造			専門基礎分野		
学年	1年	開講期間	前期	単位数	2単位	時間数	60時間
担当教員		内藤 一郎					
授業計画(授業内容)		第16回 呼吸器の構造					
		第17回 肺と呼吸運動					
		第18回 生殖器系の構成					
		第19回 人体の発生と胎児の成長					
		第20回 内分泌系					
		第21回 自律神経系					
		第22回 神経系と脳の構造					
		第23回 脳を支える仕組み					
		第24回 脊髄の構造と機能					
		第25回 末梢神経系: 脊髄神経					
		第26回 末梢神経系: 脳神経					
		第27回 感覚器: 眼球の構造と視覚					
		第28回 感覚器: 聴覚と平衡覚・嗅覚・味覚・皮膚					
		第29回 成長と老化					
第30回 体表の構造							
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】獣医師として医学研究の業務経験がある。					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		人体の機能				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		井上 徹					
授業目的		正常の人体諸機能とそれらの統合作用を理解することによって、病的状態にある人体を考え評価する基盤をつくる。					
到達目標		1) 正常人体機能を理解して、身体的状況に応じた看護の技術とアセスメントの基盤を身につけるために、得られた知識を人に説明できるレベルまで修得する。 2) 人体機能の繊細さを識ることによって、健康(…正常)であることの大切さを強く意識できるようになる。					
授業の概要		本科目は生理学と呼ばれる領域であり、解剖学と共に「人体の構造と機能」として、これから学ぶ医学や看護学の基盤になります。「機能＝動き・流れ」という動的な身体現象は、限られた期間に独学で修得することが容易とは言えません。そこで、① 毎回の授業に集中して臨む、② 1回の授業ごとに復習して理解・暗記に努め、知識を集積していく、という地味な積み重ねだけが、修得への最短の道だと思えます。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		内村さえ他：人体の構造と機能(医歯薬出版)					
自己学習		1回の授業ごとに復習して理解・暗記し、知識を積んでいくこと。これを怠ると、早晚ついて行けなくなります。					
留意事項(持参品等)		紙(…板書用), 色鉛筆(…青, 赤の2色), 付箋(ふせん)					
授業計画(授業内容)		第1回 人体を構成する物質の組成, 細胞の働き					
		第2回 体液: 体液量, 体液区分, 体液組成, 体液移動(…浸透圧)					
		第3回 血液: 血液量, 血漿・血球の役割					
		第4回 循環器系: 心周期, 心電図の成り立ち					
		第5回 循環器系: 血液循環, リンパ管, 血圧調節(…神経性, 体液性)					
		第6回 呼吸器系: 換気, 肺気量分画, 呼吸調節					
		第7回 消化器系: 消化液, 3大栄養素の消化と吸収					
		第8回 エネルギー代謝: エネルギー物質, 解糖, 貯蔵, 飢餓					
		第9回 泌尿器系: 腎臓の役割, 尿生成, 排尿					
		第10回 内分泌系: フィードバック調節, 視床下部・下垂体前葉系ホルモン					
		第11回 内分泌系: 昇圧調節, 血糖調節, Ca・P調節					
		第12回 中枢神経の役割					
		第13回 自律神経の役割, 体温調節機構					
		第14回 運動系: 筋収縮の仕組み, 運動伝導路					
		第15回 感覚系: 分類, 視覚伝導路と視野					
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】医師として眼科医の業務に携わっている。					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		病理学総論				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		藤井 昌江					
授業目的		病気の原因やその成り立ちを科学的に理解することを目的とする。					
到達目標		系統的に疾病の原因や成り立ちについて理解することができる。					
授業の概要		人間がどのような原因で病気になり、その病気が人体にどのような機序で影響を及ぼし、人体の構造をどのように変化させていくのかを学ぶ。先天異常、代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症、免疫病理と感染症、腫瘍について学ぶ。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		大橋健一他:疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学(医学書院)					
自己学習		授業中に理解すること。授業後に復習して理解できているかどうか確認する。授業が終わったらあとで習ったところをはじめから最後まで読む。					
留意事項(持参品等)		解剖、生理、生化学についてよく理解しておくこと。常に復習すること。					
授業計画(授業内容)		第1回 病因・組織障害					
		第2回 再生と修復					
		第3回 循環障害					
		第4回 循環障害					
		第5回 循環障害					
		第6回 炎症					
		第7回 炎症					
		第8回 免疫とアレルギー・感染症					
		第9回 代謝異常・老化					
		第10回 新生児の病理・先天異常					
		第11回 腫瘍					
		第12回 腫瘍					
		第13回 腫瘍					
		第14回 生命の危機					
		第15回 まとめ					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		微生物学				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		宇野 文夫					
授業目的		ヒトと密接に関連する各種微生物の性状と、これらの微生物が原因となる感染症について理解し、看護学を学修するために必要な基礎知識を得ることを目的とする。					
到達目標		(1)感染症の原因となる微生物の特徴と、ヒトとの関わり、感染症の基本的な概念について述べるができる。 (2)主な感染症および原因となる微生物について列挙し、概略を述べるができる。					
授業の概要		病原微生物の生物学的特徴、人の生活との関わり、感染症の基本概念について学ぶ。主な感染症及び原因となる微生物について学ぶ。併せて、感染症の原因となる主な微生物の検査法・治療法について学ぶ。					
成績評価		筆記試験を実施する。					
教科書等		南嶋洋一他:微生物学 疾病のなりたちと回復の促進[4] (医学書院) 必要により、補充教材を作成して配付する。					
自己学習		練習問題を配付するので、当該範囲の授業までに解答しておくこと。					
留意事項(持参品等)		授業には教科書および配布した補充教材・練習問題を持参すること					
授業計画(授業内容)		第1回: 微生物学概説と各微生物の生態・分類上の位置					
		第2回: 細菌の形態、増殖様式、分類、常在細菌叢等人体とのかかわり					
		第3回: 真菌と原虫の性質及びそれらによる感染症					
		第4回: ウイルスの特徴、構造と機能、増殖等					
		第5回: 感染と感染症1(細菌が原因となる感染症の総論)					
		第6回: 感染と感染症2(ウイルスが原因となる感染症の総論)					
		第7回: 感染と生体防御の概説					
		第8回: 細菌感染症各論1					
		第9回: 細菌感染症各論2					
		第10回: 細菌感染症各論3					
		第11回: 細菌感染症各論4					
		第12回: ウイルス感染症各論1					
		第13回: ウイルス感染症各論2					
		第14回: ウイルス感染症各論3					
		第15回: ウイルス感染症各論4					
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】ウイルス学・微生物学に関する教育・研究の実務経験あり。					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		人間関係論				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		中嶋 裕子					
授業目的		本講義の目的は、良好な人間関係をつくるための知識と技術を学ぶことで、保健医療分野の専門職としての基本的な態度を醸成することである。患者、家族をはじめ、その他の専門職を理解することで、良好な人間関係を構築できる人材を養成したい。					
到達目標		1) 良好な人間関係づくりのための考え方を理解ができる。 2) 知識で得た人間関係づくりのための知識を実践することができる。 3) 患者・家族の立場を理解し、良好な人間関係づくりのための心構えができる。 4) 他職種連携時に良好な人間関係を保ちながらチームケアを行う心構えができる。 5) 人間関係の調整への責任感を持つことができる。					
授業の概要		良好な人間関係づくりを目指すための考え方や方法について学ぶ。 患者・家族との関係づくりについて学ぶ。 他の専門職間と良好な関係づくりを行い、チームケア実践のための学びを行う。 講義および模擬体験場面を交えながら学ぶ。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		長谷川浩他:人間関係論(医学書院)					
自己学習		随時、指示を行う。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 人間関係の中の自己と他者					
		第2回 対人関係と役割					
		第3回 態度と対人行動					
		第4回 集団と個人					
		第5回 コミュニケーション1					
		第6回 コミュニケーション2					
		第7回 カウンセリングと心理療法					
		第8回 コーチング					
		第9回 アカーティブコミュニケーション					
		第10回 保健医療チームの人間関係1					
		第11回 保健医療チームの人間関係2					
		第12回 患者を支える人間関係1					
		第13回 患者を支える人間関係2					
		第14回 家族を含めた人間関係1					
		第15回 地域をつくる人間関係					

学科		看護学科	開講年度			令和3年度	
科目名		看護学概論			専門分野専門 I		
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		藪田 素子					
授業目的		看護の先駆者たちの主要概念等を通して看護の本質を理解し、専門職としての自己の看護観を発展させていく基本的能力を学修する。看護活動が科学的根拠に基づき倫理的に実践できることの重要性を学修する。					
到達目標		1) 看護の基本となる概念が理解できる。 2) 看護の対象である人間のさまざまな見方を知り、対象を統合体としてとらえる意味が理解できる。 3) 健康の概念や保健医療システムを理解し、チームにおける看護者の役割が理解できる。 4) 看護の提供システムについてサービスの考え方、提供の場、サービスの管理などについて理解できる。					
授業の概要		看護の主要概念である「人間、健康、環境、看護の概要」を認識して看護を考えることができ、看護の本質及び「看護学」を理解する。また、看護の先駆者として、ナイチンゲール、ヘンダーソンなどの看護理論を中心に概観し、看護を理解する。看護の現象を捉え看護の役割、課題について学び、法及び倫理、保健医療福祉サービスと関連させ看護の対象を理解する。					
成績評価		定期試験と小テスト等の総合評価とする。					
教科書等		茂野香おる他:基礎看護学[1] 看護学概論(医学書院) ナイチンゲール:看護覚え書(日本看護協会出版会) V・ヘンダーソン他:看護の基本となるもの(日本看護協会出版) 佐藤栄子:中範囲理論入門(日総研) 手島恵:看護者の基本的責務(日本看護協会出版会)					
自己学習		指示した教科書を熟読する。					
留意事項(持参品等)		教科書は常に持参すること					
授業計画(授業内容)		第1回 今、私たちが考える看護とは					
		第2回 看護理論の発展(ナイチンゲール・ヘンダーソン・トラベルビー)					
		第3回 看護理論の発展(ナイチンゲール・ヘンダーソン・トラベルビー)					
		第4回 看護とは					
		第5回 看護の機能と役割					
		第6回 看護の対象の理解①					
		第7回 看護の対象の理解②					
		第8回 看護の対象の理解③					
		第9回 看護の対象の理解(教育目的と目標)					
		第10回 健康の概念①					
		第11回 健康の概念②					
		第12回 健康の概念③					
		第13回 国民の健康・生活の全体像の把握					
		第14回 看護者の職業倫理					
		第15回 看護の提供システムと看護の役割					
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】看護師として国立病院機構にて看護業務に12年間携わる。					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		コミュニケーション			専門分野専門 I		
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		松尾 栄					
授業目的		看護師に求められるコミュニケーションについて考え、様々な場面を設定したコミュニケーションの技術について修得する。					
到達目標		1) 医療者のコミュニケーションが注目される背景を理解できる。 2) 看護師がコミュニケーション技術を用いて、看護の目的を達成していくことの重要性について理解できる。 3) コミュニケーショントレーニングの必要性について理解できる。 4) 医療者のコミュニケーションと一般のコミュニケーションの違いを理解できる。					
授業の概要		コミュニケーションとは何か、種類、影響するものなどを考えながら、コミュニケーションを理解する。様々な場面を設定し技術を体験する。					
成績評価		定期試験(100%)の総合評価					
教科書等		有田清子他:基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院)					
自己学習		自らのコミュニケーション方法について意識してみる。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 コミュニケーションの意義と目的					
		第2回 看護におけるコミュニケーション					
		第3回 良好なコミュニケーションに必要な技法(質問技法)					
		第4回 積極的傾聴と共感					
		第5回 良好なコミュニケーションに必要な技法(関係構築の技法)					
		第6回 看護場面のプロセス					
		第7回 看護場面のトレーニング					
		第8回 コミュニケーションの障害への対応,試験					
備考							

学科		看護学科	開講年度			令和3年度	
科目名		フィジカルアセスメント				専門分野専門 I	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		石川 典子 小笠原 ミヨ子					
授業目的		フィジカルアセスメントの意義と目的を理解し、対象者を全人的・多角的に捉える方法を修得する。					
到達目標		1)フィジカルアセスメントに必要な知識や技術の基本が理解できる。 2)フィジカルアセスメントの内容と進め方が理解できる。 3)系統別にフィジカルアセスメントし、健康状態を査定できる。					
授業の概要		フィジカルアセスメントの重要性を学び、身体の診察に必要な知識や技術を系統別に理解する。知識と技術を統合し、演習を行う。					
成績評価		定期試験(70%) (小テスト、課題提出状況を含む) 実技試験(30%) 演習姿勢を含む(バイタルサイン測定)					
教科書等		有田清子他:基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院) 仁和子他:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院) 松尾ミヨ子:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学[2] ヘルスアセスメント(メディカ出版)					
自己学習		教科書、参考図書を用いて予習、復習を行う。 演習した技術については、反復練習を行う。					
留意事項(持参品等)		演習時は実習室使用のルールと身だしなみを整えて臨むこと。					
授業計画(授業内容)		第1回 ヘルスアセスメントとは・健康歴とセルフケア能力のアセスメント					
		第2回 フィジカルアセスメントに必要な技術、全身状態・全体印象の把握、計測					
		第3回 バイタルサインの観察とアセスメント					
		第4回 バイタルサインの観察とアセスメント (演習)					
		第5回 バイタルサインの観察とアセスメント (演習)					
		第6回 系統別フィジカルアセスメント(呼吸器系)					
		第7回 系統別フィジカルアセスメント(循環器系)					
		第8回 系統別フィジカルアセスメント(呼吸器系) (演習)					
		第9回 系統別フィジカルアセスメント(呼吸器系) (演習)					
		第10回 系統別フィジカルアセスメント(循環器系) (演習)					
		第11回 系統別フィジカルアセスメント(循環器系) (演習)					
		第12回 系統別フィジカルアセスメント(腹部)					
		第13回 系統別フィジカルアセスメント(腹部) (演習)					
		第14回 系統別フィジカルアセスメント(筋・骨格系)					
		第15回 系統別フィジカルアセスメント(乳房・腋窩、頭頸部と感覚器)					
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】看護師として一般急性期病院にて看護業務に11年間携わる。(石川)看護師として大学附属病院にて看護業務に13年間携わる。(小笠原)					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度	
科目名		看護技術 I			専門分野専門 I	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	2単位	時間数 60時間
担当教員		石川 典子 小笠原ミヨ子				
授業目的		看護技術の要素を理解し、状況に適した看護介入の内容・方法を修得する。				
到達目標		1)看護技術を適切に実践するための要素が理解できる。 2)対象者に適した援助の意義や必要性が理解できる。 3)対象者に安全・安楽な援助ができる。				
授業の概要		日常生活上援助を中心とした様々な看護技術を、看護介入別に内容・方法を修得していく。学修後の演習を通して実践能力を修得していく。				
成績評価		定期試験(50%) 課題提出状況、小テストを含む 実技試験(50%) 演習姿勢を含む(車いす移乗、清拭・寝衣・おむつ交換)				
教科書等		有田清子他:基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院 仁和子:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院				
自己学習		教科書、参考図書を用いて予習、復習を行う。 演習した技術については、反復練習を行う。				
留意事項(持参品等)		演習時は実習室使用のルールと身だしなみを整えて臨むこと。				
授業計画(授業内容)		第1回 安全確保の技術: 誤薬・誤認・転倒転落防止				
		第2回 感染防止の技術: 感染防止、標準予防策)				
		第3回 感染防止の技術: スタンダードプリコーション(衛生的手洗い・手指消毒) (演習)				
		第4回 感染防止の技術: スタンダードプリコーション(防護用具の着用・外し方)(演習)				
		第5回 感染防止の技術: 無菌操作 (滅菌物の取り扱い、滅菌手袋)(演習)				
		第6回 活動・休息援助技術: 良肢位、ボディメカニクス、体位変換				
		第7回 活動・休息援助技術: 良肢位、ボディメカニクス、体位変換 (演習)				
		第8回 活動・休息援助技術: 歩行・移乗・移送				
		第9回 活動・休息援助技術: 車椅子を用いる場合の援助 (演習)				
		第10回 活動・休息援助技術: 車椅子を用いる場合の援助 (演習)				
		第11回 清潔・衣生活援助技術: 全身清拭・更衣				
		第12回 清潔・衣生活援助技術: 陰部洗浄				
		第13回 清潔・衣生活援助技術: 全身清拭・更衣(おむつ交換)(演習)				
		第14回 清潔・衣生活援助技術: 全身清拭・更衣(おむつ交換)(演習)				
		第15回 清潔・衣生活援助技術: 陰部洗浄(おむつ交換) (演習)				

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		看護技術 I				専門分野専門 I	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	2単位	時間数	60時間
担当教員		石川 典子 小笠原 ミヨ子					
授業計画(授業内容)		第16回 清潔・衣生活援助技術: 陰部洗浄(おむつ交換) (演習)					
		第17回 清潔・衣生活援助技術: 足浴・洗髪・口腔ケア					
		第18回 清潔・衣生活援助技術: 足浴 (演習)					
		第19回 清潔・衣生活援助技術: 洗髪 (演習)					
		第20回 清潔・衣生活援助技術: 洗髪 (演習)					
		第21回 清潔・衣生活援助技術: 口腔ケア (演習)					
		第22回 食事援助技術: 食事援助の基礎知識、食事摂取介助、摂食・嚥下訓練					
		第23回 食事援助技術: 食事摂取の介助 (演習)					
		第24回 食事援助技術: 食事摂取の介助 (演習)					
		第25回 食事援助技術: 非経口的栄養摂取の援助 (演習)					
		第26回 排泄援助技術: 自然排尿および自然排便の介助					
		第27回 排泄援助技術: 床上排泄援助 (演習)					
		第28回 排泄援助技術: 導尿・持続的導尿					
		第29回 排泄援助技術: 導尿・持続的導尿 (演習)					
第30回 排泄援助技術: 導尿・持続的導尿 (演習)							
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】看護師として一般急性期病院にて看護業務に11年間携わる。 (石川)看護師として大学附属病院にて看護業務に13年間携わる。(小笠原)					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		療養環境・療養生活援助技術			専門分野専門 I		
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		石川 典子 小笠原ミヨ子 戸田 裕江					
授業目的		生活と療養の場から捉えた対象者のニーズと安全・安楽な療養を調整するための知識と技術について修得する。					
到達目標		1)対象者の療養環境・療養生活が理解できる。 2)対象者が安全・安楽に療養できるための援助ができる。 3)回復過程が促進できる技術が理解できる。					
授業の概要		人間にとっての生活環境の意義、重要性を理解し、対象者の健康状態に応じて快適な病床環境を調整するための知識と技術を理解する。また、看護における安全の概念を学び、安全管理、事故防止の重要性について理解する。ユマニティ方法の活用で回復促進する技術を理解する。					
成績評価		定期試験70% 小テスト・その他提出物 実技試験30% 演習姿勢を含む					
教科書等		有田清子他:基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 仁和子他:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)					
自己学習		教科書、参考図書を用いて予習、復習を行う。 演習した技術については、反復練習を行う。					
留意事項(持参品等)		演習時は実習室使用のルールと身だしなみを整えて臨むこと。					
授業計画(授業内容)		第1回 環境調整技術: 療養生活の環境、ベッドメイキング					
		第2回 環境調整技術: ベッド周囲の環境整備 (演習)					
		第3回 環境調整技術: ベッドメイキング (演習)					
		第4回 環境調整技術: ベッドメイキング (演習)					
		第5回 苦痛の緩和・安楽確保の技術: ポジショニング・罨法					
		第6回 苦痛の緩和・安楽確保の技術: ポジショニング・罨法 (演習)					
		第7回 環境調整技術: 臥床患者のシーツ交換 (演習)					
		第8回 環境調整技術: 臥床患者のシーツ交換 (演習)					
		第9回 清潔援助技術: 膀胱留置カテーテル挿入中の陰部洗浄(演習)					
		第10回 清潔援助技術: 膀胱留置カテーテル挿入中の陰部洗浄(演習)					
		第11回 創傷管理技術: 創傷治癒・創傷処置講義					
		第12回 創傷管理技術: 包帯法演習 (演習)					
		第13回 創傷管理技術: 褥瘡について(戸田)					
		第14回 創傷管理技術: 褥瘡予防・処置法について(戸田)					
		第15回 創傷管理技術: 褥瘡予防・処置法について(戸田)					